2024年度事業報告

**１．概況**

主催大会16件・新制度にもとづく公認大会44件の開催、審判講習会・読手講習会の開催、各種表彰、機関誌の発行、文化講演会の開催など、諸事業を計画通り遂行しました。

**２．重点実施事項の進捗**

今年度は中長期ビジョンに定めた「**大半の市民が競技かるたに親しみを感じ、常時競技かるたを楽しんでいる愛好者は現状の2倍に拡大している**」状態を2033年頃に実現させることを目標に、以下の4項目を重点に活動を推進しました。

**１）社会に向けた広報活動の発信強化**

①プレスリリース対象の拡大、一般層を意識した情報発信

一昨年度から開始した主催大会でのプレスリリース配信を今年度から全日本選手権大会、全国女流選手権大会でも実施し、4月に2回、5月に1回配信の結果、それぞれ42件、65件、61件メディアに掲載されました。また、タイトル戦である全国選抜大会（3月）でのネット中継を6年ぶりに実施しました。

この結果、11月下旬以降名人位・クイーン位決定戦から7月の全国高等学校選手権大会まで、ほぼ毎月切れ目なくネット中継とリリース配信による競技かるた発信を実施している形になりました。

しかし、8月から11月下旬までの**約4か月間が空白となっていることが課題**となります。

また、ちはやふる小倉山杯では対戦カードやパブリックビューイング解説者を初めて事前公開するなどのファン層を意識した情報発信の質向上にも取り組みました。さらに協賛企業とのコミュニケーションをはかる活動の結果、2社からプレスリリースで競技かるたの魅力を発信していただく成果を得ることができました。

②社会・メディアを意識したイベント・キャラバン開催の企画検討

中長期的な課題として社会・メディアを意識したイベント・キャラバン開催検討に着手しました。次年度には具体的な企画へつながるよう調査・検討を継続していきます。

**２）普及活動の拡充**

昨年度収集した全国の都道府県かるた協会・かるた会の活動内容の共有化をはかるため、他県・他会への参考となるポイントを明記した事例紹介を7月からホームページに掲載を始め、年度内に計7事例の紹介を完了しました。

また、従来から要望の多い中高年層向けを対象とした大会の試行として、１月に世代別交流大会を開催しました。次年度は現競技者が永く楽しめる取り組みとして全支部で開催できるよう働きかけていきます。

さらに、次年度には上述の事例等か**ら標準的・先進的な初心者普及方法をメニュー化し、全都道府県へベストプラクティスの展開**をはかります。

**３）新たな大会運営へのスムーズな移行**

**(1)新全国大会制度の周知および運営体制整備**

　新全国大会制度について昨年度の支部長会議、各会代表者会議での説明を経て、昨年度末には「競技会規程」改正版としてとりまとめました。また、抽選制度をスムーズに運用するため、**大会申込書の様式変更**（出場回数の自己申告）と競技かるた部・本部事務所による選手毎の出場回数を管理する体制を構築しました。さらに9月には、一部混乱が見られた抽選制度についての通知を発信し、周知をはかりました。この結果、**全国各大会において新全国大会制度に則った大会運営ができました**。新制度の改正点の一つであるD・E級の取り扱い（公認大会継続または後援大会化、複数回の開催）についても、地域・主催会の実情に応じて実施されています。

次年度からは、運用する中で課題が顕在化しつつある**大会出場記録確認方法の効率化、大会申込の電子化等**について企画・検討を進めてまいります。

また、全国高等学校選手権大会の開催にあたり一部で懸念の声が出された団体戦における声かけについては、意見集約、部門内検討を経て３月末に**団体戦競技規程細則を制定**し明文化しました。次年度から全国高等学校選手権大会他各団体戦を本細則に基づき実施し、問題点・課題があれば柔軟に見直しをはかってまいります。

**(2)全国高等学校選手権大会の継続的な見直し**

新全国大会制度導入にともなうD級取り扱いについて高等学校文化連盟（全国小倉百人一首かるた専門部）、日本高等学校かるた連盟のそれぞれの責任者との協議を重ねた結果、以下2点を条件に新全国大会制度に則った大会へ改正することを決定し、7月の日本高等学校かるた連盟総会へ報告し理解を得ました。

1. 現1・2年生への配慮と周知に万全を期するため2025年は現状の開催を継続し**2026年からD級を廃止する**
2. D級廃止後も、団体戦に出場する生徒（111人=2024年大会実績）だけが参加できる競技会（仮称「交流の部」）を新設する

今後は個人戦参加資格改正内容の全高校への周知展開、仮称「交流の部」の具体内容の検討を進めます。また、従前から課題となっています団体戦を中心とした大会時間短縮方策の検討の継続、大会収支の更なる安定化に取り組んでまいります。

**４）協会組織の見直しとコンプライアンスの徹底**

支部長会議（4月）での意見交換を経て、都道府県かるた協会の新たな役割を導入する組織整備案を企画し、理事会・支部長会議(11月)、各会代表者会議（2月）で説明、意見集約をはかりました。会計管理をはじめとして種々の問題点・課題が明確になりつつあります。今後は**役員と各都道府県かるた協会との座談会等**をも企画し理解活動をはかるとともに課題解決に向けた検討を進めます。

また、コンプライアンスについては対外的な問題となるような不祥事はありませんでしたが、大きな問題になりかねない事象が複数発生しました。今後は組織全体のリスク管理力を高めるため、**具体的な案件への対処事例の共有化**をはかってまいります。

**３．2024年の事業の成果**

**１)会員数**（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 2024年度 | 2023年度 | 差　異 |
| 1.正会員 | ２，８３５ | ２,７３６ | ９９ |
| 2.准会員 | ２，０４８ | １,８９６ | １５２ |
| 小計（1+2） | ４，８８３ | ４,６３２ | ２５１ |
| 3.賛助会員(個人) | １７９ | １８３ | * ４ |
| 4.法人賛助会員\* | １４ | １５ | * １ |

\*法人賛助会員名（順不同、敬称略）

　 ㈱奥野かるた店　 ㈱大石天狗堂　 近江神宮　　(公財)小倉百人一首文化財団

㈱マウビック　 ㈱ヤマネ　　 マルイト　わたや 　シップス㈱

宗教法人　妙久寺　　㈱講談社　㈱カルチャーランド　　 Beta Computing㈱

共栄火災海上保険㈱ 文化ネット合同会社　　\* 2024年に㈱万葉 退会

**２)昇段者数**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段位 | 2024年度 | 2023年度 | 差　異 |
| 初段 | ２，０１６ | ２,１４４ | * １２８ |
| 二段 | １，２２８ | １,０８６ | １４２ |
| 三段 | ５１４ | ５００ | １４ |
| 四段 | １３９ | ６６ | ７３ |
| 五段 | ３９ | １３８ | * ９９ |
| 六段 | ９ | １５ | * ６ |
| 七段 | ７ | ２ | ５ |
| 八段 | ３ | １ | ２ |
| 九段 | ０ | ０ | ０ |
| 十段 | ０ | １ | * １ |
| 合　計 | ３，９５５ | ３，９５３ | ２ |

**４．実施事業**

**１）大会開催事業**

(1)主催大会

　　合計17大会を開催。詳細は別紙1の通り。

(2)公認大会

　 新制度に基づき各会が主催する44大会が開催された。詳細は別紙2の通り。

**２) 各種講習会開催事業**

講習会開催実績　(ルール勉強会、読み方勉強会を含む)（回、人）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 支部 | 審判講習会 | | 読手講習会 | |
| 北海道・東北 | 1回 | 6人 | 2回 | 40人 |
| 関　東 | 2 | 39 | 3 | 166 |
| 甲信越 | 1 | 8 | 1 | 19 |
| 北　陸 | 2 | 14 | 12 | 79 |
| 東　海 | 2 | 40 | 4 | 36 |
| 近　畿 | 1 | 27 | 2 | 86 |
| 中　国 | 1 | 6 | 1 | 24 |
| 四　国 | 0 | 0 | 1 | 16 |
| 九　州 | 2 | 32 | 8 | 88 |
| 合　計 | 12 | 172 | 34 | 554 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 競技かるた部 | - | 2 | 57 |

**３）表彰認定事業**以下、2024年 6月に表彰

(1)功労賞第１級

　　津久井 勤（湘南かるた会）　　　　 水井　廉雄（篠山かるた会）

(2)功労賞第２級

　　江里口　典子（佐賀競技かるた会）　橋口　裕子（佐賀競技かるた会）

(3)特別功労賞

　　鎰谷　節（洛南高等学校）　　　　　加藤　安英（静岡県立磐田南高等学校）

　　外山　和之（静岡県立伊豆中央高等学校）

西　えりか（彩雲かるた会）　 楠木　早紀（大分かるた会）

　(4)百人一首奨励賞

　　　野田　旗子（佐賀県唐津市在住）　 猪熊　静枝（前橋かるた会）

　　　太田　富夫（三重若菜会）　　　　 鶴上　寛治（元熊本県かるた協会会長）

**４）機関誌「かるた展望」発行事業**

第79号　2024年9月 発行

第80号　2025年2月 発行

**５）文化講演会の開催事業**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 第１回 | 第２回 |
| 日　時 | 2024年6月16日（日）  13時～14時30分 | 2025年1月10日（金）  16時～17時15分 |
| 場　所 | 近江勧学館 | 琵琶湖ホテル |
| 講　師 | 牧野 町子 氏（をだまき会） | 川村 裕子 氏（武蔵野大学日本文学研究所客員研究員、新潟産業大学名誉教授） |
| 演　題 | 小倉百人一首ゆかりの地を訪ねて-歌人たちの人生を垣間見る約30年の足跡- | 楽しもう！『百人一首』 |

**５．専門部の活動実績**

専門部毎の活動実績は以下のとおりです。（太字は「2」にあげた重点実施事項に関わる事項）

|  |  |
| --- | --- |
| 部 門 | 活 動 実 績 |
| 広報部 | 1)HP（特設ページの設定、コラムの投稿）およびXを活用した、タイムリーな情報提供  2)全日本選手権大会、全国女流選手権大会、全国高等学校選手権大会、名人位・クイーン位決定戦、ちはやふる小倉山杯、全国選抜大会　のインターネット中継  3)**全日本選手権大会、全国女流選手権大会、全国高等学校選手権大会、名人位・クイーン位決定戦、ちはやふる小倉山杯において代理店を活用した広報活動（ニュースリリース等きめ細やかな情報発信、協賛団体募集等）**  4)国民文化祭、名人位・クイーン位挑戦者決定戦での速報対応  5)名人位・クイーン位挑戦者決定戦での画像のみのコストを抑えた簡易中継  6)名人位・クイーン位決定戦（本戦および挑戦者決定戦）の見どころのショート動画作成 |
| 普及・指導部 | 1)**初心者指導に熱心な県協の活動事例を取材し、全日協ＨＰに掲載した**。  　 年度前半に10県の事例を紹介するつもりだったが、作業が遅れた。  2)全日協主催の初心者教室・体験会については検討を進めることができなかった。  3)**中高年層向けの大会については、1月に試行大会を開催した**。  4)公認指導者制度については、部内での検討を進めることができなかった。 |
| 競技かるた部 | 1)**新たな全国大会制度により、主催・公認大会の運営体制整備**  　各地域・主催会の実情に合わせて周知し混乱もなく運営できている。各級分割と主催会のご協力により抽選をする大会が少なくなっている。  大会出場申込や出場記録の電子化や効率化の検討・企画立案を進めている。  2)競技規程・競技会規程の改定の運用管理  　大会MLで発信の大会案内の内容確認を行い、規程違反が起きないよう注意喚起している。  3)審判指導員の講習会  リモ－ト会議を中心に、メ－ルでの講習会となっている。現地集合の講習会は未開催。公認審判講習会の要請は進めているが、指導員や公認審判増員など育成は次年度に繰越とする。  4)読手指導員の講習会  　11月、3月のA級公認読手選考会で専任読手より実務的、実技的な講習会を実施した。支部内の公認読手を目指す方の講習会ができるような指導育成も実施している。  　委嘱状の作成・発送の見直し検討は次年度へ繰越とする。  5)**「団体戦競技規程細則」の企画制定**  団体戦開催の関係者との意見交換を重ね次年度より実施できるように策定した。 |
| 審査部 | 1) 段位審査（通年）  2) 段位審査会の開催（4月、11月）  3) 段位審査規程の制定（25年4月）  ＜反省点＞  　(1) 昇段基準のホームページ修正・段位申請書の改訂の周知遅れ  　(2) 会員・免許状情報の総務部との連携見直しの検討遅れ |
| 企画部 | 1)文京区ドリームマッチ（2024年5月12日）の運営協力  まちおこし、名人クイーンの参加するイベントとして定着化させられるよう協力体制を築いた。  審判・解説等の依頼が例年より後手になり決定まで難航したものの、東京都の方を中心に多くの方にご協力頂き、名人クイーンの試合を多くの方にご覧いただくことができた。配信についても関係各所のご協力を頂き、大きな問題なく実施できた。  次年度の課題について、関係者による反省会を実施した。  2)かるた展望　第79号発行（2024年8月）・第80号発行（2025年2月）  ①読み物としての魅力充実  大河ドラマ「光る君へ」との関連企画、大会・練習会運営についての情報共有等  幅広いコンテンツを発信。  ②編集作業の効率化、発行までの所要時間・部員の負担減について検討  原稿管理ドライブの活用により、原稿集約の円滑化を図っているが、  校正ソフトの検討、導入については実施のめどが立っておらず、次年度の持ち越し課題とする。  　 特定の部員への作業量の偏りがある。早期にスケジュール組みを行い、幅広く協力を要請し、分散化していくのが次年度以降の課題である。 |
| 調査研究部 | 1)令和６年１月５日（金）百人一首文化講演会講演録を作成し、会員に配布。  2) 小倉百人一首講演会開催  日　時　令和6年6月16日（日）：  演　題　「小倉百人一首ゆかりの地を訪ねて  ―歌人達の人生を垣間見る約30年の足跡―」  講　師　牧野町子（全日本かるた協会調査研究部員、神奈川県かるた協会理事、をだまき会代表）  3) 百人一首文化講演会開催  日　時　令和7年1月10日（金）  演　題　「楽しもう！『百人一首』」  講　師　川村裕子（武蔵野大学日本文学研究所客員研究員、新潟産業大学名誉教授）  4)調査研究部会  第１回　令和6年5月8日（水）  第２回　令和6年10月25日（金）  ＜反省点＞  講演会の日程・会場・内容等の検討を十分に行うことができなかった。 |
| 総務部 | 1. 協賛募集活動の推進   3大会（名人位・クイーン位決定戦、ちはやふる小倉山杯、全国高等学校選手権大会）を対象として活動した。  　　3大会合計で前年とほぼ同額の協賛を得た。  (1)広告代理店起用による年間通しての活動を展開  (2)協賛企業とのコミュニケーション着手  2)**都道府県かるた協会組織整備案の企画**  4/27支部長会議、11/16理事会・支部長会議、2/16各会代表者会議へ提案  　 新組織への移行時期と役割を明示。各所から課題・問題点等を収集した。  3)**全国高等学校選手権大会見直し案の企画**  7/19日本高等学校連盟総会、11/16理事会  (1)持続可能な方式の目処づけ完了  (2)1年前倒しで24年度に黒字化達成  4)D・E級大会開催推進  公認・後援大会として十分開催されていることを確認  5)**リスク管理体制強化方策の企画**  リスク案件の理事会共有  6)全体事業計画の推進  検討組織を立ち上げられず全日協主導の広報・普及イベント企画の着手ができなかった |

**６．総会・理事会等の開催**

**１）総会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第11回  通常総会 | 2024年  ６月16日 | 近江勧学館 | 1,369人  内、  会場出席 44  委任状1,325 | 1)2023年度事業報告 報告の件  2)2023年度計算書類の承認を求める件  3)2024年度事業計画書および収支予算書の承認を求める件  **３）２０１９年度事業** |

**２）理事会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第19回理事会 | 2024年  4月27日 | 豊田市コンサートホール・能楽堂　多目的ルーム | 21名 | 1)2023年度事業報告および決算書類  2)2024年度事業計画書及び収支予算書  3)第11回通常総会招集の件  4)功労表彰  5)表彰規程の改正  6)第5回ちはやふる小倉山杯の結果  7)称号・大会成績の表記統一について  8)タイトル戦の出場資格について  9)読手指導員の選考結果報告書  10)都道府県かるた協会組織力の強化  11)山下名誉顧問の叙勲受章について |
| 第20回理事会 | 2024年  11月16日 | 文京スポーツセンター | 19名 | (1)2025年度事業計画骨子（案）  (2)公認大会新制度の運用状況  (3)団体戦競技規程細則の制定  (4)全国高等学校選手権大会の見直し  (5)都道府県かるた協会組織整備  (6)2024年度収支予算の進捗  (7)協会本部への通報案件  (8)全日本かるた協会の創立年 |

**３）常務会**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第44回常務会 | 2024年  4月11日 | 本部事務所、  オンライン併用 | 6名 | 1)コンプライアンス案件  2)第19回理事会上程資料  　・2023年度事業報告、2024年度事業計画書・収支予算書  　・表彰規程の改正  　・功労表彰　他  3)その他 |
| 第45回常務会 | 2024年  11月5日 | オンライン | 6名 | 1. 第20回理事会上程資料   ・2025年度事業計画骨子、都道府県かるた協会組織整備 他   1. 新たな施策導入の検討 |

**４）支部長会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第22回  支部長会議 | 2024年  4月27日 | 豊田市コンサートホール・能楽堂　多目的ルーム | 14名 | 1)称号・大会成績の表記統一について  2)タイトル戦の出場資格について  3)読手指導員の選考結果報告  4)功労表彰について  5)都道府県かるた協会組織力の強化について  6)各支部からの報告・提案  7)第19回理事会報告（書面報告） |
| 第23回  支部長会議 | 2024年  11月16日 | 文京スポーツセンター、オンライン併用 | 12名 | (1)公認大会新制度の運用状況  (2)団体戦競技規程細則の制定  (3)都道府県かるた協会組織整備  (4)協会本部への通報案件  (5)普及指導部からのお願い |

**５）各会代表者会議**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 会議名 | 開催日 | 場　所 | 出席者数 | 議　題 |
| 第11回  各会代表者会議 | 2025年  2月16日 | オンライン | 58名 | 1)2024年度事業の進捗報告  2)公認大会新制度の運用状況  3)2025年度事業計画について  (1) 2025年度事業計画骨子  (2) 専門部活動計画  4)団体戦競技規程細則  5)都道府県かるた協会組織の整備について  6)各都道府県協会・登録会からの質問・意見等への回答 |

以上